

【平成27年10月1日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第2回）要点録】

江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第2回）要点録	
開催日時	平成27年10月1日（木）午前10時00分～12時00分
開催場所	江田島市役所 本庁 2階会議室
出席者	<p>■有識者会議委員（敬称略 所属団体については就任時の状況）</p> <p>周藤 康治 厚生労働省広島労働局呉公共職業安定所 寺崎 雅浩 広島県健康福祉局子育て・少子化対策課 上迫 滋 広島県 CCMO（県政コミュニケーション・マーケティング 総括監） 中井 高志 江田島市金融懇談会 濱中 繁美 江田島市自治会連合会 加藤 真由美 江田島市認定こども園こよう保護者会 清水 昭彦 田舎暮らしを楽しもう会 村上 浩司 江田島市農業委員会 平田 圭司 江田島市商工会 伊藤 富美雄 江田島市観光協会 市村 匠 公立大学法人県立広島大学（座長）</p> <p>■江田島市</p> <p>【事務局：企画部企画振興課】</p> <p>畑河内 真 企画振興課 課長 猪垣 英治 企画振興課 課長補佐 道本 浩二 企画振興課 専門員</p> <p>【事務局：株式会社エブリプラン】</p> <p>木原 隆</p>
欠席者	<p>■有識者会議委員（敬称略 所属団体については就任時の状況）</p> <p>富田 美保 江田島市 PTA 連合会 久保河内 鎮孝 江田島市漁業振興協議会 平田 圭司 江田島市商工会</p>
傍聴者	9名
会議次第及び資料	<p>会議次第</p> <p>1 開会 2 座長あいさつ 3 協議事項 （1）江田島市人口ビジョン（素案）について【資料1】 （2）江田島市総合戦略（素案）について【資料2-1, 2-2】 （3）パブリックコメントについて【資料3】 4 その他 5 閉会</p> <p>【資料】</p> <p>資料1 : 江田島市人口ビジョン（素案）について 資料2-1 : 江田島市総合戦略（素案）について 資料2-2 : 江田島市総合戦略の事業（第2次江田島市総合計画具体的施策） 資料3 : パブリックコメントについて</p>

会 議 記 録	
事務局	<p>1 開会</p> <p>本日はお忙しいなか、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。会議の開催にあたり、お手元の資料の確認をお願いします。最初に次第、1枚めくっていただくと委員名簿、次に資料1の江田島市人口ビジョン（素案）について、次に資料1の推測資料をつけています。資料2-1、資料2-2の江田島市総合戦略（素案）について、最後に資料3、パブリックコメントについてです。前回議事録も添付しています。不足はございませんか。本日、議事録を作成しますので、会議を録音させていただきます。ご了承ください。</p> <p>ただいまより江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議第2回会議を開催します。会議は、次第に沿って進めます。はじめに座長から、ごあいさつをお願いします。</p>
座長	<p>2 座長あいさつ</p> <p>本日は雨がいきなり降り出して、僕は広島市内に住んでいますので船が出るか心配しました。職員の方とFacebookでつながっているのですが、今日から船の運航会社が変わったということで、時刻表は大丈夫かと調べながら来ました。特に何も変わることはなく、何が変わったかという、アナウンスの前に音楽が流れて賑やかになったと思いました。宇品で船に乗ろうとしたとき、降りる人のほうが多くて、乗る人が少なかったのが、これが一つの問題点だと思って、どうやって人を呼び込めばいいか、特に江田島が全国的に知られていないという話もありますが、江田島の地域ブランドの認定も、いろいろとマスコットキャラクターを作ったり、そういうのが全国的に知られてきています。例えば特定のことを言っはいけないかもしれませんが、江田島産カキと広島県産カキという、江田島のカキのほうがいいよねという声も、ちらほら聞かれ始めている。というように、知名度は上がっているのではないかと少しずつ思い始めています。これは僕の感覚なので皆さんの感覚とは違うかもしれませんが、しかしながら、どこにあるの？とか、行ってみようかというところまで、まだ届いていないかなというところもあるのではないかと思います。</p> <p>もう1つ、話が変わりますが、実は僕はこういうのをほかの市町でも会議に参加していて、大学にほとんどいないねと、怒られたりしますが、昨日別の市でも会議に参加していました。そこは昨日で終わったのですが、最後に、僕が仕掛けたことが1つだけありまして、委員の方が向こうは24名いて、そこでああでもない、こうでもないという議論をしながら、いろいろ進めていきましたが、そこでは、最初に市のやっていることに対して皆さんは文句ばかり言っていました。皆さんでどういうことをやったらいいかを考えていき、いろんなアイデアが出てきて、最後、4回目ですが、前回のときに僕が、もし市がやらないとしたらどうする？という話をしました。やるという保障はありません。計画を立てても、やるという保障がありませんという話もして、それでも自分たちでやりたいことって、なんですか、考えてみましょうと、僕はその市町では、単なる委員で参加していましたが、そういうことを言いました。</p> <p>地方創生の重要なところは、誰かに任せるのではなくて、誰がやらなくても、最後に、自分1人でもやっていくという意気込みを持って進めていこうというのが1つ、重要なところだと考えています。今日は江田島市の将来を考えるという重要な皆さまのご意見をちょうだいするところですので、ぜひ活発なご意見をいただければと思います。よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。委員のご欠席についてご連絡が入っています。江田島市漁業振興協議会の久保河内委員と江田島市商工会の平田委員、江田島市PTA連合会の富田委員はご欠席です。</p> <p>これから次第の3協議事項に入ります。規約で、座長がこの会議の議長となるとしていますので、ここからの進行は議長をお願いします。</p>
座長	<p>3 協議事項</p> <p>事務局から協議事項の説明があると思いますが、僕がお願いして、この前の段階でできたものを皆さまに、前もって事前に配布していただいて、できれば意見をちょうだいし</p>

【平成27年10月1日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第2回）要点録】

	<p>たいとお願いしました。今日は、この資料の説明を行ってまいります、事務局にお願いしているのは、いただいた意見に対して、できる限り、回答していただければとお願いしています。もし説明が足りないことがあるかもしれませんが、その場合は説明が終わったあとでご質問いただければと思います。それでは、江田島市人口ビジョン（素案）について、ご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（1）江田島市人口ビジョン（素案）について【資料1，推測資料】 （「江田島市人口ビジョン（素案）について」説明） ※内容は資料1、推測資料のとおり</p>
座長	<p>ありがとうございます。人口ビジョンについて、コメント、質問はございますか。</p>
委員	<p>人口が減ってくることで、市の財政の兼ね合いがはっきりわからないのですが、財政力指数も一つの指針になると思いますが、江田島市が成り立つためには、どのくらい人口がいないと、江田島市は破綻するという問題も絡んでくると思いますが、その辺の根本的な部分を皆さんがしっかり知ったうえで、対策を立てるということでない、ただ、その辺の江田島市の現状がよくわからないという部分もあるかと思えます。その辺が知りたいです。</p>
事務局	<p>財政推計を江田島市がやっています、ある程度、人口がどうなるというの見込みながらやっていますと思いますが、そんなに長いスパンでやっているものではありません。江田島市が、ここまでいったら破綻するという数字的なものは、ここで出していませんが、現実問題として、どうなるかとなると、減ってきた税収に合わせて取り組み事業が減ることになると思われ。財政破綻になるかどうかというよりは、それより先に、やっていける事業が絞られるということになると考えられますので、考えられるのは大きなお金が掛かるインフラなど、そうしたところがまず、真っ先に絞られることになるかなと思います。数字的に、ハッキリとしたものというものは、なかなか難しいところがありますが、想定されるのは、そうしたかたちで、規模が縮んでいくと思われ。ます。</p>
委員	<p>その辺のアバウトでも、住民の人も、行政ももちろんですが、その辺の危機感、悪いほうの最低ラインはこうですよという部分を認識する必要はあると思います。そうしないと、ただ目標だけ決めても、これを切ったらダメよということは、当然あると思いますが、その辺が一住民としては、よく理解できていない部分が私にはあります。その辺も、今からやっていく考えのなかで大事な部分ではないかと思えます。</p>
事務局	<p>税収などは人口で掛けたら出るかと思えますので、そこの見せ方を検討して工夫してみます。</p>
委員	<p>資料にあるものを見てみると、外から人が入ってこられて自然発生的に子どもが生まれてというお話ですが、実際に今、江田島市内から呉市内、広島市内に通ってサラリーマンをしている方がどれくらい今、いらっしゃいますか。私は広島市内に住んでいて、こちらへ転居して1年半たちますが、正直、江田島市がこんなに近いところにあると知りませんでした。</p> <p>逆にいうと、外に出た方も、なんらかの事情で呉市と広島市に転出が一番多いと書いてありますが、もしかしたら連れ合いの方、女性が出られて連れ合いの方が呉市で家を建てるので、呉に住んでいますという理由だけかもしれない。逆にいうと、こっちに住むのが苦痛じゃなくて通っている方がどれくらいいて、なぜその人たちは江田島から離れないのかという理由がわかれば、なにかしらの、こっちに住んでも呉市、広島市に通うことは全然苦痛じゃないと、もっと言うと、うちの会社でも西条や可部の奥の方からバスに乗って2時間かけて銀行の本店まで来る人がいます。それを思うと、30分で宇品に行ける仕組みがあるのに、なぜ人が住まないのか、もっと言うと、ハウスメーカーさんがなぜ江田島で家を売らないか、いろいろ考えると不思議なことがあります。</p>

【平成27年10月1日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第2回）要点録】

委員 (続き)	そのうえで、こっちに住んでいて、通っている方のニーズがどれくらいか、ご意見や、こうやって暮らせば通えますと、もっといって、生活がしやすい島ということで、アンケートを採ると出ていますが、実際に僕も住んでみて、実感として、本当にいいところだと思えます。暮らすのに、すごくいい場所だと思えます。ただ、それを阻んでいるのは、おそらくどう通えばいいのか、どう住めばいいのか、選択肢のなかに呉と広島の方に、江田島に住むという選択肢がないことなのか、そこが少し見えてくると、なにかしら今働いている世代を呼び込むという意味では、何か突破口になるかなという気がします。
事務局	実際に調べたことがあるのですが、何人の方が通われているかという実数が今手元にないので、そういったものも、ここに盛り込めるか検討させていただきます。江田島市に住んで通われている方が、なぜそういう選択をされているのか、どうしてかは、調べていかなければわかりませんが、私が以前、別の機会にいろいろなデータを見たとき、移住を希望される方は、若い方はすごく多いのですが、30代40代はぐんと減って、生活基盤や子どもさんの生活といったところで、その土地に生活基盤ができれば移住指向はガクンと落ちるのだと他のデータで見ることがあります。実際に通われている方も、生活基盤がここにあって、実際に通える範囲で仕事があることが、要因かなと、これは推測ですがそういったところかと思えますので、そこについては短期間で把握するのは難しいと思うので、ビジョンや戦略ができたあとも、要因を図りながら、どうしたら効果的、そういった方をどんどん増やせるか、やり方として効果的なのかを考えていきたいと思えます。
委員	委員と重複するところがあるかもしれませんが、江田島市第2次総合計画では人口目標を平成36年度、2万3,000人、まち・ひと・しごとでは平成31年度目標が2万4,000人となっていますが、現在江田島市の人口2万5,000人ぐらいではないかと思えます。そうすると、年に350~400は減少しているのが現状ではないかと思えます。この目標は非常に厳しいと私は思えます。先ほども説明がありましたように、若い年代の人、男女とも市外に、特に呉の地域への転出が多いですね。これをしっかり、自衛隊さんの話もありましたが、ほかにも何かあるのではないかと思えますので、そこらを真剣に考えていかなければ、この人口を止めるのは難しいのではないかと思えます。もう少し何かいい案はありませんか。
事務局	おっしゃるとおり、人口目標はけっこう高い目標になっています。今までの江田島市の人口減少の動向や今後の推計を見ても、単純にわかるのが10年間で5,000人減ることによって今までも動いていますし、これからもそういくだろうという推計になっています。そこを逆転させる具体的な事業、江田島市が合併する以前からずっと減っているのを、一気にこれを転換するのはすごく難しいことだと思いますが、そのなかでも、こうしたらどうだろうというのを、第2次総合計画なり、今回の総合戦略なり、アイデアを出していますので、また総合戦略でもご意見をいただければと思います。
委員	現状を把握するのは大切だと思っていて、文句を言うのではないのですが、いろんな市民の皆さんからの話で、市役所の職員の中で、江田島に住んでいない方もたくさんおられると聞きます。いろんな事情があるでしょう。ご結婚されて、奥さんが呉や広島におられることもあるのですが、そこは確認をしていますか。これは文句ではなくて、事実をしっかりと把握して江田島の市役所へ勤めている方が江田島に住んでいない、事情があるので、そこまで言いませんが、その確認もしないと、また、原因、いろんなこともありますから、無理なことは言えませんが、江田島の市役所へ勤める方は、江田島へ住んでしっかりと定着することも大切ではないかと、あえて問題提起をさせていただきます。
座長	市役所の職員が市内に住まないことについての問題点は、なかなか難しいと思えますが、答えられますか。
委員	住民の皆さんの不安、将来の体制の不安もあるので、あえてここで皆さんと共有して、そういう意地悪ということではなくて、この会議である程度、そういう事実を共有した方がいいかなと思って申しあげました。

【平成27年10月1日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第2回）要点録】

事務局	<p>実際、そうした職員が一定数いることも確かですし、そうしたことで、市民の皆さんからご意見をいただくことも、僕もここへ来て、何度も耳にしています。わかるというところはありますが、委員もおっしゃったように、それぞれの職員さんの個々の事情があるということで、当然、職員さん、本人さん1人だったら自由自在に住めると思いますが、私も広島市から通っています。それがなぜかという、広島市に、親の世代から引き継いだ自宅もあって、子どもがいて、母親もいて、僕が引っ越すと母親1人を置いて家族が出ていくのも忍びないとか、自分のことを言ってもしかたがないのですが、なかなかこれでも悩んで通いになっているという、事実としてはあります。</p>
委員	<p>江田島に住んでいて、江田島に住所が以前からある方もいますが、あえて言うのではないのですが、そういうことも含めて総合的に考えないといけないと思います。</p>
座長	<p>答えづらいと思っていたのですが、もし市の職員を市内に住みなさいと、例えば条例かなんかで決めますとなったとき、職員の住宅の手当までしないと、これは公務員だからと、そこら辺に勝手に住めばいいということではありません。数年前から職員住宅とか、そういうものに対して、江田島だけではなく全国的に、国家公務員でもいろいろ問題になったと思います。そのとき、いろいろな縛りが外れて、どこに住んでもいいというわけではないのですが、何かあったときに、ちゃんと当番制で駆けつけられる人、近くに住む人といった、最低限のことは行われたうえで、そういう個人個人の状況を配慮したかたちに今、なっているのはあると思います。先ほど、もし全員が市内に住むというのも、可能だとは思いますが、そのコストを考えると難しいと思います。</p>
委員	<p>住みなさいと言っているわけではありません。現状を把握して、どんな理由があるのか、住んでいただくためには、どうしたらいいかということ、協議することが重要と考えています。ですから、市内に職場があるのに、市外から通ってこられる。呉、広島に職場を持っておられる方が市内から通っておられることも事実です。私の友人も、呉の職場に通っていたけど、職場環境の関係から、実家から出て呉に家を建てたとか、いろいろなことがあるので、職場が江田島にあるのに、江田島に住んでいただけない理由はなんだろうか、住んでいただくためには、どういう環境を整備したらいいのかを検討していったらいいかなという思いがあります。</p>
座長	<p>そういうことを職員に調査をしてほしいということですか。</p>
委員	<p>そういうことです。</p>
委員	<p>一番近い生の声が聞けるサンプルではあります。</p>
委員	<p>職員の方もそうですが、僕は40代ですが、子どもを持つ親ですが、どちらかという、奥さんが強いです。小学校や高校など学校のことを考えると江田島ではなく、どうしても都市へ住むとなっています。僕の同級生も、大半が市外です。そういう状況ですね、今の僕らの世代は。そこまで江田島を考えているのかといえば、そんなに考えていないような、僕はたまたま農業をしているので親元に一緒に住んでいます。そういう環境をつくっていますが、他の方は、ほとんどそんな環境ではないのではないでしょうね。</p>
委員	<p>その理由は、何が一番大きいですかね。</p>
委員	<p>理由はなんでしょうかね。一緒に住みたくない。</p>
委員	<p>それを聞いてみてもいいかもしれない。教育かもしれないし。</p>
委員	<p>そういう時代じゃないですかね。故郷で親と一緒に住む環境をつくっていなかったかも。もともと僕らの親世代が、そういう環境をつくっていなかった。子どもに教えていない。それが今、現実、離れているみたいな感じじゃないですかね。親1人が田舎に住んで、僕ら世代のころは仕事が忙しいので都市へ住んで、そこで家庭をつくって、そこへ親を連れてくるけど、その親は、都市より田舎がいいというのも話を聞きます。</p>
委員	<p>通おうと思えば通えてベッドタウンにできるぐらいの距離でも、そういう考えですかね。</p>
委員	<p>自分の生活を1番に考えるんじゃないですかね。</p>
委員	<p>団地のほうがいいですか。</p>
委員	<p>住宅を構えるというか。</p>

【平成27年10月1日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第2回）要点録】

委員	私の保育園の知り合いでもはっきり言って江田島市は住みにくい、子育てしにくいと言っています。保育園だったら認定にはなったのですが保育が1時までです。1時で終わりです。だいたい12時半には迎えに行かないといけません。
委員	夕方まで預けて仕事はできないのですか。
委員	仕事をしていたら4時までにはいいですが、働いていないと、1時までです。今どきの幼稚園で、そんな早いところはありません。
委員	そういう意見を、あとの議題のパブリックコメントとなるんでしょう。そういうところの本題の話ができるパブリックコメントにできたらと思います。私も総合計画の審議会へいきましたが、素晴らしい意見も出ましたが、やっぱり表面的な意見で終わるということで、残念なところがあったので、今、委員も言ったように、さまざまな意見、思いがおりるので、そういう状況把握のためには、そういう把握をして、どういう対応をしたらいいかという作戦が練られますので、真実の思いというのを聞けたらなという思いで問題提起をさせていただいたので、市職員へクレームを言ったわけではないので、事実、そういうことですから、いろんな形でご検討をいただきたいと思います。
委員	実際に転出を食い止めるとか、転入を、定住を促進するといったとき、例えば定住では、仕事があれば移住するのではないかといても、実際に仕事がかっちにある人も、先ほど言われたように市外から通ってこられる状況が、なぜかというのは、やはり掘り下げる必要があると思います。そうでないと、なんの施策を打てばいいのかというのは、出てこないと思います。先ほど言われたように、子育て一つとっても、今の認定こども園の働いていない方の預かりが、例えば3時ぐらいまでになれば、すごく子育てしやすい環境ということであれば、それは具体的にそういう施策もとれると思います。そういうのを、1つ、探してみる手段として、身近な市役所の人からというのも、手かなとは思いますが。別に市役所の人だけでなく、商工会の人にもいますので、そういう人たちにも、そういうアンケートをしてみるのもどうですか。
委員	マーケティングを生業としている人間でいくと、そういう方を離脱ユーザーというのですが、今まで買ってくれていたのに、買わなくなった人に、なぜかを聞くのは、すごく大事なですね。その離脱した理由のなかに、改善点がいっぱい隠れていて、そのなかでもクリティカルポイントといいます。ここがキーだと、ここが最後の決め手になっているところが見つかる。そこに力を集中していけば、けっこう最大の成果がそこから上がるので、そこが、全体をぼんやり眺めていて、やばいと言ってもなかなか始まらないですが、もう少し掘り下げて、どこに一番のキーポイントがあるかを探る作業はすごく大事です。今回の総合戦略にそれがいきなり反映されるかは別にして、これはずっと続くわけですから、そういう作業はきちんとやってもいいのではないかと思います。
座長	僕は今の意見を伺っていると、第2次総合計画策定の時に調べたのではないかと思います。それが調べきれいな状況だということになりますかね。
委員	本音が、なかなか出ていなかった。
委員	今の件は、議員さんが議会で一般質問を出していますが、市の説明では法律とか、いろいろなことがあって非常に難しいということで、今、止まっていると思います。
座長	いろいろな立場の中から、たくさんこうやって意見が出て、今、人口ビジョンの話をしているわけで、具体的話は、これから先に出てくるはずですが、それに入れない、どうも第2次総合計画を決めるときの議論、いろいろワークショップなどを開いて決めたところで本来は出てきているのではないかとと思われるところが、また今ここでも個別にごそごそ出てきている。ちゃんと調査が行われていなかったというようなイメージを受けるのですが、もしそうであるならば、もうちょっと意見がちゃんと言えなかった人は、意見を言うべきです。 それがどのように反映されるかはともかくとして、どうして転出するのかということが一つの話題になったと思いますが、別の市町だと、転出のときにアンケートをお願いしています。なぜ出ていくのですかということを書いてもらって、それを分析している市町もあります。これは人口減少が始まったときからやっているそうです。

【平成27年10月1日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第2回）要点録】

<p>座長 (続き)</p>	<p>人口がこれ以上いなくなると、市が成り立たなくなるといいう危機感を持たれるのもそうですが、なぜ出て行くかという人に、それぞれの理由があるわけで、それを調べることも必要だし、市職員の人がどれだけの数、調査対象になる数の人がいるのであれば、そこも調査をしたほうが良いと思います。</p> <p>数値の人口ビジョンの統計から言えることは、見ていると、逆にいうと、これ以上、僕は言えないのではないかと。なぜ減っていくかとか、どうしたらいいかというところの、実は人口ビジョンの中でも、34ページをご覧くださいと、目指すべき将来の方向ということで、①から④が書いてあります。今おっしゃっていることは、①から④を、将来の方向性として定めるとしては、情報が少なすぎて判断できないということではないですか。もし、この方向性が間違っているならば、その理由は、わからないのでなんともいえないというのであれば、ここに書くことも、それは問題だと思います。その辺、いかがですか。</p> <p>何が足りない、これが足りないというのは、個別の意見もたくさん出てくると思うので、置いておいてというわけではないのですが、34ページの方向性に関して4つ、①地域で暮らすための仕事をつくる、若者が魅力を感じる仕事づくり、②交流人口の増加を図り江田島との縁を有する人を増やす、人の流れづくり、③子どもが生まれ育つ江田島市づくりを進める、結婚・出産・子育ての環境づくり、④市民満足度が高く時代に即した住み続けたいまちをつくる地域づくりという項目は、これに対して意見がある方がいらっしゃいましたら教えてください。</p>
<p>委員</p>	<p>①地域で暮らすための仕事をつくるということですが、実は私がこちらへ移住してきて14年目ですが、当初、まだ町政の時代で、まちの方向性が見極められない、わからないということから、移住した人たちが非常に困ったということで、地域の情報が入ってこないということが一番で、そういうことで田舎暮らしを楽しもう会をつくりました。それがテレビに出演したということから、本格的に、ちょうど市政になったこともあって、移住者の活動を始めました。市のあり方として、来て下さいまではいいのです。空き家バンクもできました、おためし暮らしもできましたと、でも、仕事に関してはまったくゼロです。それはプライベートなことだから、そこまで突っ込めませんと、お世話できませんという建前だったように思います。</p> <p>最近、それではいかんということで、自分たちで、私は個人的にも、ある会社の社長さんにお会いして仕事をなんとか雇ってもらえませんかということで動いていますが、そうすると、けっこう仕事があります。市内でも、まだ大中小ありますが、雇用の件に関しては、歩くともっとあります。結局、定住促進のなかでも、定住促進課の担当の人が、やはり広島から通っているので説得力がありませんでした。だから僕らも、そばにいて困るんですよ。来てもらいたいけど、あんたは広島から通っているのが、そんなことを言ってもいいのかということもありました。その辺の体制の反省も含めて、やり替えなければいけない部分もあるのかなと思います。仕事というのは、もっと掘り下げればあるのではないかと。最近の傾向としては、社会福祉協議会が来年3月を目指して、実際に動いていますが、無料職業紹介事業を始めています。そういうところと連携して、仕事を確保できると若い人の移住もできてくる。今月も北海道から一組来るのですが、これも仕事をこっちで見つけて本人もネットで調べてここへ来たいと、探してやろうということで、それを実現できた例もあります。</p>
<p>委員</p>	<p>何歳ですか。</p>
<p>委員</p>	<p>36歳です。まだ子づくりの範囲内で非常に楽しみです。若い人たちが最近、移住希望者がだんだん増えているのは事実です。先ほど言われたように仕事と子育てが絡んでくると思いますが、根は、何があっても一緒に、結ばれていると思いますが、官であろうが民であろうが、一つになってできることをやっていく体制にしないと、前へ進まないのではないかという気がします。そういうことで、江田島というのは皆さんが思っておられる以上に、知名度がありません。体験型修学旅行の千葉からの高校が2泊3日で今朝、帰ったのですが、江田島がどちらへ向いているかわからないのです。江田島の歴史も、海軍兵学校は何ですかと、そのぐらいの知名度です。ここが宮島ですと説明しますが、宮島は何ですかと、その程度です。</p>

【平成27年10月1日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第2回）要点録】

委員 (続き)	日本三景、世界遺産といえども、まだまだ江田島の近辺の知名度は薄いというのは、まだまだ感じました。まず、定住促進に関しても、江田島のPRということから、もう一回やらないと、各地域で定住の催し物をやっていますが、今から先は、その他大勢のなかの江田島じゃなくて、江田島独自で動いていくという、定住促進に関しては、そういうことを現実にやっていかないと、今の流れのなかでやったって、これはなかなか増えるものではないと思います。
座長	それをどうするかというのが、次に出てくる総合戦略ですね。人口ビジョンについてはいいと思いますが、今出てきたものをまとめると、調査が足りないということですかね。調査というのは統計的な調査ではなくて、実際に意見を収集したり、アンケートを採るとか、いろいろな機会を利用して、調査をしましょうというのとも考えてほしいということによろしいですか。ご検討をお願いします。
委員	論点の大きな方向性はいいと思います。これを戦略に落とすとき、どこに絞れば利くかが、どこまで構えられていますかという話ですね。
委員	方向性は、これでいいと思います。
座長	2番目の「総合戦略の素案について」に移ります。説明をお願いします。
事務局	(2) 江田島市総合戦略(素案)について【資料2-1, 2-2】 (「江田島市総合戦略(素案)について」説明) ※内容は資料2-1、2-2のとおり
座長	ありがとうございます。ご質問、コメントをお願いします。
委員	総合計画の中で定住促進のための住居(支援)が入っていますね。このあいだもテレビで、県内で江田島市の空き家が一番多いというのが放送されていました。市でも江田島市交流定住促進協議会をつくっています。そのなかで空き家問題対策として、いろいろ補助金制度があり、江田島で暮らしてもらうという会議をしています。そうすると、その会議とここで出ている会議は、どのような、同じようなことをこっちでやり、あっちでやりという感じを受けますが、どうですか。
事務局	今やっている江田島市交流定住促進協議会の取り組みも、この戦略の一部の取り組みということで、別のものを掲げているわけではありません。今やっている取り組みをさらに充実させたり、進化させたり、そういったことでやっていこうというふうに見ただけだと思います。
委員	江田島市交流定住促進協議会がやった議題や意見をまとめたやつがこれに入ってくるということですか。
事務局	そうです。交流促進課が取り組んでいる取り組みも入ってきますし、今でも議論をしてこういう施策をやったらいいのではないかということも、今後も新たな取り組みとして入れてくると思いますので、そうしたものも含めて、このなかでやっていくということです。
座長	今日の話を持って、このプロジェクトのPRとかが、どこに向けたPRを想定しているかを確認したいのですが。呉や広島市など、隣接地域のものなのか、大都市圏に対するものなのかというのを、もう少しお聞かせください。
事務局	この時点で、東京近畿の大都市圏か、広島市など近隣かと、はっきり絞っているわけではありませんが、どちらか1個ということには、ならないと思います。どちらも視野に入れて検討していくことになると思います。そのなかで、具体的な検討はこれからやっていくので、現時点の僕の考えに過ぎませんが、江田島市の強みは、船で数十分のところに広島や呉の都市圏があるというところに、そういう近い距離にある島嶼部というところに優位性があると思っていますので、ターゲットとしては、広島市、呉市も大きな要素としては入ってくるのかなと、今時点では思っています。何にせよ、全国レベルでも、近場レベルでも、どちらも考えていく感じになるかと思っています。
座長	先ほどの広島広域都市圏、37ページで僕が一つ、心配するのは、例えば広島市にいる人が江田島に来てもらえれば、人口は増えるかもしれませんが、今度は広島市が減るとなると、隣接した市と、ケンカしてしまうという話があるので、そこを、例えば自然に流れるようなかたちで、江田島の魅力がPRできてというもののほうが僕は望ましいと思っています。

【平成27年10月1日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第2回）要点録】

<p>座長 (続き)</p>	<p>何が江田島にあって、来てもらえるかというところを考えたときに、市の職員さんだけではなくて、そこで僕が今日冒頭で申しあげたことになるのですが、今日参加していただいている委員の皆さま、おそらく、どちらかの団体の代表として参加されていると思います。個人としての参加もありますし、組織としての参加もあるのですが、その代表としてここに来ていらっしゃるわけで、どういうことが江田島のいいところをPRできるか、今後、いいところをつくっていくかが、先ほどのプロジェクトの素案のところ、これは1行書いただけですので、具体的なことが埋められていくのではないかと思います。そこが本来は、どこかで意見をもらえるといいかなと思います。今ここで言うのが難しくても、自分はこのことをやってみるよ、こういうふうにしたいというビジョンをそれぞれがお持ちいただいて、例えば今日、この場でもいいですし、戻られてから、皆さんと話をさせていただいてもいいですしというプロセスをどこかで踏んでいただきたいと僕は思います。</p> <p>総合戦略の案は、一つは広島の広域都市圏のなかの江田島市という位置づけ、次に呉との関連、あとは大都市圏、どこかとは言いませんが、逆にいうと、江田島から出ていった人がいそうなところを、コネを使って、なんとか江田島をPRするというのも考えて、どういうかたちで市が創生していくかのビジョンを考えていただければと思います。もし、そういうふう考えたときに、このプロジェクトに足りないというのがあれば、ご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>広島や呉からの移住ということに関して考えますと、過去の例からすると広島あたりから移住するのは、まれに、まったく完全移住するのがありますが、傾向としては、いわゆる二地域居住、早い話が別荘感覚でこちらへ遊びに来る、交流人口に関してはそのほうが多少、増えています、人口増大につながらないで、言葉は悪いですが、いいところどり、両方のいいところで生活をする。でも、それは江田島市の大きな活性化にならないのではないかと。</p> <p>それより、もっと今、傾向として多いのは、北海道や東北の寒い方の移住者がけっこう増えています。そして、若者も増えています。その根拠は何かというと、やはり温暖で生活しやすいという環境もいいということ、もう1つが都市圏に近いけれどもほどほどの田舎らしさで、山の奥の山村ではなく入りやすい田舎ということが江田島の魅力と映っていると思います。政策としては広域、寒いところをターゲットにする、いわゆる東京近辺ももちろんそうですが、そういう傾向が強いので、僕らは西のほうは、最近はやっとそういう話が少ない。北海道や東北などへPRしたらどうだろうという気がします。</p>
<p>座長</p>	<p>大都市圏だけではなくて、もっと他のところもということ。他にございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>PRやセールスの仕事をプロとしてやってきた立場からということで、観光でも物産でも移住もそうですが、選ぶ側から見ると、いろんな選択肢があるわけです。そのなかから江田島を選んでもらわなければいけないので、そのときは、選ぶに至る江田島ならではの価値がないと、なかなかPRするにしても、何をPRしていいのかよくわからないとなります。恵み多き島ですが、どんな島？と言われて恵み多き島というのは、あなたどんな人？と言われて、いいところがいっぱいある人よと言うのと一緒で、何も言っていないことと一緒にあります。</p> <p>何かに絞って勝負しなければいけない。そのときに、何で勝負すればそこまでいくのか、その辺は強みとして何がありそうかを棚卸しして、どうブラッシュアップをかければ誰にアピールすると選んでもらえそうなのかを検討したなかで絞り込んで勝負するという、そのプロセスが実はすごく大事で、そのプロセスそのものが、実はマーケティングで、それで選んでもらって、選び続けてもらって、結果としてできるのがブランドです。だから、ロゴをつくってマークをつくれれば、ゆるキャラをつくれればできるものではないのです。</p> <p>ただ、可能性はすごくいっぱいあると思っていて、何がいいかということ、宮島に沈む夕日が眺められる、日本でも、たぶん、あの江田島のあちらの岸しかないんですね。宮島の東側にありますから。世界遺産宮島に沈む夕日の絶景が眺められる日本で唯一の場所なんです。</p>

【平成27年10月1日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第2回）要点録】

<p>委員 (続き)</p>	<p>よく来た人が、露天風呂はないですかと聞かれるのですが、あそこに露天風呂があれば、日本人は絶景露天風呂が大好きですから、仮に宮島に年間500万人ぐらい人が来ますが、でも、北側にしか泊まる場所がないので、朝日も夕日も見れないところに30万人ぐらいしか泊まらないのです。だいたい3～4時間ぐらいしか滞在しないで、すぐに次に行きます。</p> <p>仮に宮島と検索したとき、トップ画面に、宮島に沈む絶景の夕日が眺められる露天風呂というのが、必ず検索に引っかかるように、そこにお金を使っておけば、宮島に行く人が、そんなところがあるのかと、魅力的な泊まる場所もないから、2～3時間で帰ろうと思ったけど、足を伸ばしてみるかという人が、そこから呼び込めるかもしれません。呼び込めるものにするには、もうちょっと強化する必要があるかもしれませんし、そこに投資しようという、それはこんなものがあったら来たいですかと、宮島に来ている人に聞けばいいのです。これなら行きたいという人が1割いれば、50万くるわけじゃないですか。みたいなことが、それがたぶんターゲットを絞るということで、訴求ポイントを絞るから、「誰に」「何を」が見えて初めて、どのように伝えるかという話なので、いきなりどのようにから入ってもしょうがないわけです。</p> <p>誰に何を伝えれば移住、物産しかり、オリーブはいいのですが、ずいぶん先をいって有名になっている小豆島と、なんで勝負するのか、江田島オリーブは、小豆島にない、どういうならではの価値がありますよと言えるようにして勝負するか、選んでもらうかというところの勝算があってやられているのか、逆にお聞きしたいと思っているのですが、そこがないまま作付面積を広げても、結局売れなかったり、安くしか売れないということで、苦戦することになりますので、そこを決めていくことが戦略だったりするのですね。今回で完全にじゃなくて、作品じゃないですから、方向性があればそこに向けて、生の声を聞きながらつくりこんで、とがらせていって、そこで初めてPRにお金をかけていく価値が出てくるので、本当にいいものだったら、PRにお金をかけなくても、Facebookとかでシェアされて、どんどん広がっていきますから、逆にいうと、それぐらいのネタをつくると考えることのほうが、実は先かなと思います。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございます。一点、今の話で僕はゆるキャラとロゴを考えた1人なので、あれは、それをつくるためにやったのではなくて、ブランドをつくるために、そのブランドで売るものを特産品としてちゃんとつくるためにという全部が、一緒に同時並行で動いて、ようやく外に出せるようになったので、ゆるキャラやロゴをつくりましたという話です。選定委員やそっちの委員長もやっているの、言わせていただくと、ゆるキャラやロゴの出してきた公募をしたのですが、海外からの投稿があったというもので、かなりそういういろんなことを江田島のことを調べてもらったうえで出てきているという過去の背景もあるので、皆さん、誤解されては困ると思ったので。</p> <p>あとの点は、僕は別のことを言おうと思っていたら、同じことを言われたのですが、僕は大学の教員なので学生を連れて江田島市に来たのです。いろいろなところを探そうと、探してもらいました。いいところは、どうやって探したかという、一日自転車で動いて探しました。数が少ないですね。悪いところは、たくさんありました。どういう悪いところかという、パンフレットやいろんなところに載っているものを見ていくと、ものがなかったよとか、営業時間なのにやっていないと、そういうのがけっこうありました。いいところは、逆に載っていないところもある。載っていないのは、なんで？という自分でもいいところだと思っていない、そこにいらっしゃる方が、というところがたくさんあると。今、たくさんいいところがあるよというのが、同じ共感を、どうやっていろんな人に伝えるかが、足らないのではないかと思います。</p> <p>オリーブの話もそうですが、今まで僕が見ていると、どこでもそうですが、誰に対してというのは、逆にいうと、誰からそれを評価されるかを見ないで、一生懸命自分たちで頑張る、これはこれで非常にいいことだと思いますが、次の段階として、それをみんなからどういうふう考えてもらうか、見てもらえるか、見てもらえて、いいものだというものが残っていったら、自然にいろんなところに出ていくことだと思います。そのところが、今、僕が外から見ていると、この市には足らないのではないかと思います。</p>

【平成27年10月1日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第2回）要点録】

<p>座長 (続き)</p>	<p>皆さんがそれぞれ一生懸命活動をされていて、個人的に名前を申しあげたらあれですが、僕も委員に、実は前にお会いしたことがありますし、いろいろな活動をされている方を存じ上げていて、非常に頑張っておられる方だというのはわかっています。その活動、これは1つの活動で、それをほかの方も、みんなやっていくことができると、もっと、ああいう良いところがあるよねというのが、どんどん広まってくるというのがあって、それをつくって行って、それをうまく吸い上げてPRしていくことが、このプロジェクトにも書かれていますが、PR、セールスが不得手なんだよねと、市の職員の人も自分で認めていると。今後は、それを変えてやっていきましょうということだと思います。</p> <p>先ほどの6ページの統計データのオープン化と言いました。これは僕がお願いしているところでもあります。全国の自治体でも同じように求められています。先ほど、実際の数値がどうなっているかがわからないとか、アンケートがないのではないかとこのがあると思います。それを、アンケートを行いました。そのなかで、個人のコンピューターのなかに入れておくと、誰も見れません。ただ、そのまま出すと個人情報などのいろいろな問題があるので、そういうものを取り除いたうえで、そのデータをみんなで見て、ちゃんと動いているか、ちゃんとやっているか、何が問題か、こうしたらいいのではないかとアイデアも出してもらえそうな形をつくっていきましょうというのが、オープンデータ化です。それを見て面白いなど、1つは観光データでもいいと思います。場合によっては、ほかのデータもたくさんあると思いますが、そういうものを、出せるものは出して、それを見て、ほかのところも統計をしたりということも可能だと思います。一番重要なのは、市のデータを、その住民の方が見て、先ほど言うておられた懸念がないようにしていきましょうということが僕のお願いで、ここに入っているという考え方で、先ほどの人口減少のところから出てきたところの回答になるかはわかりませんが、今後そういうこともやっていきましょうということが入っています。他にご意見は。</p>
<p>委員</p>	<p>座長さんが言われたように、このプロジェクトのなかでは観光が大きな割合を占めていると感じています。観光協会の会長として、いろんなかたちで、今は施策をとっていますが、言われたように現状の把握と、今後、どうしたらいいかを、また持ち帰って、ここでいい方向で発表できたらと思いますのでよろしくお願いします。よく言われるのですが、当初、ごあいさつのときに江田島カキが言われてありがたいのですが、江田島カキを食べるところがない、島で。というのはよく言われますので、そこらも含めて、いろんな問題を前向きにできたらなという思いが、観光協会も思っていますので、いろんなかたちで皆さんにご相談しながらご意見をいただいて、前向きにイケたらと思っています。よろしくお願いします。</p>
<p>座長</p>	<p>江田島のいいところは、そういう複雑な組織がたくさん乱立していないので、お願いしますという、みんなが一生懸命、一つになって共働して目標に向かって頑張るという市の、小さくて頑張っている皆さんが共働できる場所でもあると思います。僕が1つ言い忘れたのが、こういうことをやりますと皆さんがおっしゃっていただいたので、僕が何をするかというと、僕はいろいろなところで言っていますが、大学生を連れてこのまちに遊びに来ますということを考えています。遊びに来ることをきっかけに、もしかしたら若者が将来、ここに定着したいという面白いものができればと思います。若者の気を向かせることが重要ですが、一緒に働きましょうということ、実は大学側も考えています。これは、各大学も考えていることなので、そういった繋がりもありますということで、僕は一応、今、大学の教員ですから大学生を連れて遊びに来ますということをお約束します。ということで、僕の意見を言いましたが、他にご意見はありませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>そういうプロセスを踏んだゆるキャラもありますが、今、県の仕事をしていると色々な相談がきますが、どんなゆるキャラをつくれればいいですかみたいな、いきなり、何も考えずに、これだけ飽和しているのに、いきなり、どのようにというところから入るケースが多かったので、例として話をしたので、誤解があったら訂正します。縁をつくるというコンセプトは、すごくいいと思っています。</p>

【平成27年10月1日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第2回）要点録】

<p>委員 (続き)</p>	<p>僕がどういうお手伝いができるかと思ったときには、学生さんとは違う、マーケティングのことをやってきたなかで培った縁をご提供すると。実際、今回は間に合いませんでしたが、具体的な施策に入っていませんが、首都圏で、ほかでいい試みをしているところがいっぱいあります。首都圏で企業ファームといって、企業が耕作放棄地を福利厚生用のファームとして、契約をして、そこに社員が家族を連れて毎週末通ってきて耕すと、企業側がお金は出してくれるので、年間でけっこうなお金になるのですが、そういうモデルをやっているところをご紹介して、それを、これだけ広島市から近いですから、広島市の会社に勤めている家族が、定期的に通ってくるという縁ができる、そこで良さがわかってくれば、移住してくる人も出てくるかもしれないし、そういうモデルを首都圏で推進している方をご紹介することもできます。</p> <p>同じように長島町という鹿児島にカキが名産の島がありますが、そこは学校がないので転出しますが、その人をどう戻すかで、ブリが名産なので「ぶり奨学金」という、地元に戻って就職すれば返済義務のない奨学金を出しています。今回、創生会議を立ち上げることを決めたのですが、それを推進している、総務省から行っている副市長がいて、そういう人ともけっこうやりとりがあるので、そういうのをどう回しているか、銀行などの支援を受けて一緒にやっているらしいのですが、そういうものも、ご参考の情報としてはご提供できますし、そういうものをどんどん人の縁を、力になってくれそうな人の縁をつないでいくところで、ご協力できるかなと聞いていました。そんなかたちで継続的にお力になればと思います。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございます。どんどん縁ができましたね。他にございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>計画も全部読ませていただいて、ほかの市町、日本国中でこれをやっているの、気仙沼や宮古市の計画も見て、書いてあることはほぼ変わらないと思います。そのなかで共通しているのは、人口ビジョンの31ページの居住する不安は何かと、人が住むということは居を構えるということなので、居を構えるうえで、何が不安かということ、おそらく経済的な理由が一番で、非常に現実的に考えると、家を建てたいけれどもお金がないから安い家を買う、だから団地になる、もしくは同じクオリティの家なら安い地価のところへ建てたい、江田島の良さは、そこにもあると思います。</p> <p>杉並区の高齢者に対して田舎に移住したいですかというアンケートを採った調査があって、4割ぐらいの方が関心ありますと回答しています。男性のほうが割合多くて、ロマンチストな男性が多いので、あくまで女性の意見を上から見ていくと、若い方は働き口がないでしょうということと、交通機関が不便、今勤めているところから変わると給料が下がるかもしれない、これが生活していくうえでの不安です。高齢者の方は、医療の関係、体が動かなくなったときどうすればいいかという不安があるということなので、たくさんメニューがあって、枝葉がたくさんありますが、基本的には人が定住するという前提は、安心して暮らせる、そして自分の経済的な面を見ながら、そこに見合ったところで定着するということがあると思います。</p> <p>基本的には住民サービスの向上は、絶対だろうと思いますので、教育や医療、介護、交通、そこは特に重点的に、今、おそらく教育の面でもそうですし、医療の面でも介護、交通もそうですが、江田島はそういうところが足りていない、おそらく江田島に限らず、田舎と言われるところだと思いますが、皆さんがおっしゃるように、本当に近い、都市部と隣接したところにあるという優位性があるので、そこをうまく再構築する、僕も外から来たとき、船で降りたらバスがもう行っていたということが、よくあります。そういうことがないように、ささいなことかもしれませんが、そういうことも見直しを抜本的にやって、人が住みやすい、住む選択肢に入ってくることで、外へのPRを併せてやることが、おそらくこの計画、皆さんがおっしゃっていることが充実する前提として、今の住みやすい地域になることが前提じゃないかと思います。</p> <p>ぜひ計画のなかで、そこは特に重点的に、住民の方の意見も聞きながら、こちらから外へ通っている方の意見、何がいいかをよく吟味されて、まずはいろんな魅力があって、関心を持って、ここなら住めるということが、最終的には、ここには病院がないとか、交通が不便だから通えないというダメな理由が出てこないように、そういうところを改善させ、同時に新たな取組をしていただきたいと思います。</p>

【平成27年10月1日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第2回）要点録】

座長	ありがとうございます。（2）の戦略については、皆さまからだいたいご意見をいただいたということで、またほかにご意見がございましたら、市の職員にご連絡ください。3番目、パブリックコメントについてお願いします。
事務局	<p>（3）パブリックコメントについて【資料3】 （「パブリックコメントについて」説明） ※内容は資料3のとおり</p>
座長	<p>4 その他 ありがとうございます。もう1つお願いします。皆さまは、なんらかの組織の代表などでいらっしゃると思いますが、お近くの方に、こういうことをやっているとお知らせいただいて、一度見てもらおうと、意見があればコメントをくださいというかたちで、調べていただければと思います。クローズドにするということはパブリックコメントの目的ではなく、たくさん広く意見をいただくことが目的です。協議事項はすべて終了しました。パブリックコメントは協議する必要はないですね。その他、ございますでしょうか。なければ事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>5 閉会 次回の会議は10月27日10時からこちらの会場で開催します。ご都合をよろしく願います。本日の協議事項はすべて終了しました。これもちまして、江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議第2回会議を終了します。活発なご意見をありがとうございました。 （終了）</p>